



志賀高原ユネスコエコパーク

# 信州 たかやま議会

# 133号

2020年10月25日

発行／高山村議会  
発行責任者／松本 茂  
編集／議会報編集特別委員会



## 133号 目次

9月定例会	
条例・決算の認定 .....	2
村議会議員補欠選挙 .....	3
決算審査特別委員会 .....	4-5
一般質問（5名） .....	6-9
移住定住をされた皆さんに聞きました	
③佐藤学さん .....	10
④林勇作さん .....	11
わたしの声	
坂下隆彬さん .....	12



### 宮川巧さん一家の稲刈り (9月20日奥山田字西原の水田)

奥さん息子さんとお孫さん、8人での稲刈り、はげかけの風景、奥さんの「みさ子」さんは「今時、孫まで出てきて、家族総出の稲刈りなんてないよね」この後、お嫁さんが（おこびれ）を運んできた。

この辺りではまだまだ、はげかけしている水田をよく見かけます、村の原風景として残していきたいものです。

# 令和2年9月定例会 令和元年度決算を認定

令和2年9月定例会は、9月3日から18日までの16日間の日程で開催されました。今定例会は令和元年度一般会計等の決算の認定9件、令和2年度補正予算などの議案等10件、条例新設・改正2件が提案されました。元年度決算については、「決算審査特別委員会」を設置し、3日間にわたり審査を行い、一般質問には5名が登壇し質問しました。

## 令和元年度決算9件

元年度の一般会計の決算は歳入で45億3724万円で前年度比6.3%の増。  
歳出では42億5070万円で7.9%の増となりました。  
実質収支の黒字額は2億1858万円となっています。

又、特別会計（国保・診療所・介護保険・後期高齢者医療・温泉開発・農業集落排水・下水道）と上水道会計の8会計はすべて黒字決算となっております。

## 条例の新設・改正2件

2件の条例は全員賛成で可決いたしました

**1** 高山村議会議員及び高山村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例

この条例は、町村の選挙における立候補に係る環境の改善を図るため、村議会議員選挙においても、ビラ頒布を解禁することなどについて規定するものです。

**2** 高山村指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例

この条例は、居宅介護支援事業所における管理者要件の経過措置期間を延長するとともに、主任介護支援専門員の確保が著しく困難である場合は、介護支援専門員を管理者とすることができるよう改正するものです。



税のプロによる、決算監査報告。(中村義忠代表監査委員)

# 11月1日は村議会議員補欠選挙

## 議会活性化特別委員会

とは、地域の人々が議会に対して関心が低いこと、議員に対する不信任感、議員報酬の低いこと、兼業がしにくいなどの要因が指摘されています。

- 一、夜間・休日に議会を開催することで、仕事を持った人が議員になつてくれるのか。
- 二、定期的・指定日のみに議会を開催する通年議会にすると、主婦などが参画しやすくなるのか。
- 三、議員数を少なくし、議員の待遇（報酬）を改善することはどうなのか。

高山村は、基礎的な自治体として、私たちの生活に密着した様々な事務を行っていますので、議会は、地域の皆様の代表として、重要な役割を担っています。

11年前の村議会議員選挙では、13人が立候補し選挙戦になりましたが、以降の選挙では無投票選挙と欠員状態が続いています。

平成21年当時は地域で推薦され立候補した者9名、政党推薦2名、自薦2名でしたが、平成29年の選挙では、地域推薦6名、政党推薦2名、自薦3名となり、地域推薦での立候補者が、大きく減じていることが解ります。

このことは、何を意味しているのでしょうか。

近年小規模な町村では、6割以上が選挙戦とならず、住民の信任を得ずに決定されていることは、大きな問題でもあります。

そして、議員の成り手が少ないこ

このように、多くの問題点があることから、先ず村民の皆さんに「議会報」を読んでいただき、議会を知ってもらうことが重要であるとの観点から、読みやすい、読んでいただける議会報を目指して、「議会報モニター」の皆さんと懇談を重ね、紙面の改善をしております。

村民の皆様にも議会報に限らず、ご意見がありましたら、議会事務局までご連絡ください。

高山村議会は、若い世代の代表女性の代表を求めています。

高山村のために立候補してください。

(酒井康臣)



平成28年、日本において、公職選挙の選挙権年齢が18歳以上に引き上げられました。

# 審査特別委員会

9名の委員で設置した令和元年度決算審査特別委員会（西原委員長、湯本副委員長）は、9月9日、10日、11日の3日間で審査が行われました。採決の結果、すべての議案を原案の通り認定すべきものと決定しました。

## 所管課別に主な質疑と答弁

### 総務課

質疑

職員のストレスチェックで19人が、高ストレスとのことだが、どのように対応しているのか。

答弁

対象者には産業医である室林先生と面談するよう促すとともに、管理職には、声掛けを行うなどの気配りと、異変がないか気を付けて貰っている。

### 教育委員会

質疑

歴史民俗資料館、入館料収入3万1千円に対し臨時職員2名の賃金が100万円となっている、臨時職員数、賃金の額をどのように考えているのか。

広く多くの方に入館してもらうためには、入館料を無料にしてはどうか。

答弁

臨時職員2名は、シフト制で常駐しているため、減らしても賃金の額は変わらない。賃金については、適正と考えている。

入館者を増やすため、入館料を無料にすることについては、検討する余地はあると思います。

### 産業振興課

質疑

認定農業者は現在98名おられるが、今後更なる認定者の拡大と支援の充実を図れないか、また、収入保険制度への支援はできないか。

答弁

新規就農者には、できるだけ加入してもらっている。



昭和59年9月開館した歴史民俗資料館。令和元年度入館者数が、460人。今後、どのような運営をしていくのか。

質疑

近隣にはない農業機械の購入補助などの支援も行っております。今後も支援の充実を図っていきます。収入保険制度への支援については、今後、検討したい。

名古屋大学から、首長誓約に基づいた持続可能エネルギーについての調査報告がなされているが、それに対する検討はされているのか。

# 令和元年度 決算

**答弁**

木質バイオマスの活用については進んでいないが、各課で連携を図り、村の資源を生かし、活用していきたい。



間伐された木材の活用が今後の課題です。

## 村民生活課

**質疑**

不妊治療について、村の人口増加のためにも補助金の増額をすべきではないか。また、役場窓口での申請ではなく、プライバシーに配慮し、病院で申請できるようにできないか。

**答弁**

県の補助事業との整合を図りながら、出来るだけ個人負担が少なくな

るよう検討していきたい。また、他市町村の状況を参考にしながら、プライバシーの確保が図れるような方法を検討していきたい。

## 建設水道課

**質疑**

橋梁補修工事が増えているが、どのような橋が対象で、補修の順番はどうなっているか、すべて橋を補修すると、費用はどれくらいかかるのか。

**答弁**

村の管理する橋梁は54橋あるが、路線種別や集落の孤立防止、バス路線優先など、財政状況に基づき、計画的に実施しています。



すでに補修工事がおわった、ゆうゆう橋。

## 総括質疑

すべての橋梁を補修すると、24億8千万円と試算しています。

**質疑（水谷委員）**

コロナ禍でのオンライン授業の導入による子どもたちへの影響については。

**答弁**

現在のインターネットを通じた授業は、一方方向のものであります。今後、子どもたちと先生が顔を見合いながらやり取りする、双方向のオンライン授業の実施も検討していかねければならないと、考えています。



これから補修工事が、始まる藤沢橋。

# 9月定例会 一般質問

9月定例会の一般質問は9月8日開かれ、5名の議員が11の事項について質問を行いました。

頁	質問議員	質問事項	答 弁
7頁	柴田 弘男	内山村政2期目について	出馬について、前向きに検討したい
8頁	畔上 孝一	村の人口増対策について	SNS や WEB など本村の魅力を発信し移住・定住者を増やしたい
		少人数学級を求める	大幅な教職員の増加が見込まれ、新たな少人数学級の編成は困難である
8頁	西原 澄夫	にぎわいの場事業について	村内6か所の候補地を順次、計画的に進めていきたい
		コロナ禍の中で、村民の意見、要望等をどの様に吸い上げていくか	きらめきポスト・気軽に村長室・出前いりり端会議など要望等聞く機会確保に努めたい
		コロナ禍の中で、高齢者等が避難しやすい避難所について	地区公会堂等に一時避難するなど安全な場所に避難していただくことが大切
9頁	湯本 辰雄	(仮称) 千曲大橋について	千曲大橋の必要性などが記載されたリーフレットを全戸配布し村民に啓発したい
		退職後のリンゴ栽培者に助成を	認定農業者制度に登録を
		国保税の子供均等割りの廃止を	村独自で減免することは難しい
9頁	西條 正純	山田牧場への新設建築は白紙に	再調査してから、合意を得たい
9頁	西條 正純	共用スリッパは安全か	消毒回数増と、施設の土足利用を検討

## 松川酸性水特別委員会研修報告

### 調査日

令和2年9月23日(水)

委員2名、産業振興課担当者及び議会局長の4名で調査

### 調査場所

松川、七味温泉橋下：五色温泉下：沖渡橋：駒場橋

### 調査方法

4か所を(株)佐藤計量器製作所ハンディ型 pH 計形式 SK-620PH を使用し、水素イオン濃度 (pH) 及び温度 (液温) を測定いたしました。

- ・七味温泉橋下 pH 値 3.39
- ・五色温泉下 // 3.35
- ・沖渡橋 // 3.64
- ・駒場橋 // 3.9 (注) 水道水基準値 5.8 ~ 8.6

全国的に草津温泉の品田ダム、秋田県の玉川温泉など国土交通省による酸性濃度を中和するシステムを導入していますが多額の費用を要するため松川への導入は厳しいものがあります。





柴田 弘男 議員

### 内山村政2期目について

**答** 出馬について、前向きに検討したい

**問** 村長の任期が11月と迫っています。描かれている村づくりは、いまだ道半ばではないかと考えます。気力・体力も十二分かと思われま。そこで私は、二期目に出馬していただきたいと思。1、振り返ってみて1期目の総括はどうであったか

2、2期目の出馬の決意について

#### 内山村長

村政1期目の総括について

初めに「人口増、しあわせ増」について

家庭育児給付事業・子育て支援施設・地域公共交通再編計画・第六次高山村総合計画「ずっと住



村のPRのため、ふるさと納税スタート。

みたい、また訪れたい、いいね信州高山」を策定し、進めています。

2つ目「収入増、満足増」について

若い皆さんの村外への流出に歯止めを掛け、移住を希望される皆さんに住宅を提供し、ブランド性の高い「リンゴ」や「ブドウ」農業振興を、観光・産業との連携を強め、雇用の確保に努めてきました。

3つ目「財源増、安定増について」

本村のような小規模な自治体の財政運営は、「地方交付税」に依存し「自主財源」の確保が重要です。平成29年10月から、返礼品を伴うふるさと納税制度に取り組み、本年3月で、延べ4,862人で、6,257万円の寄付。地方創生応援税制「企業版ふるさと納税」2件1,989万円の寄付など、着実に財源の確保に努めてきました。

4つ目「安全増、安心増について」

地方自治体の最も重要な役割は「村民の皆さん



学校給食費の無料化に向け、負担を軽減。

の生命と財産を守る」安心・安全な村づくりに努めてきました。

5つ目「にぎわい増、魅力増について」

村固有の産業、自然、歴史、文化等の資源を有効活用し村外からの集客向上につなげる拠点を整備し「にぎわいの場構想」を進めてきました。

これまで、現場主義に徹して、「50年、100年先を見据えた人づくり」に重点を置き、村政運営に努めてきました。

2期目出馬の決意について

【前向きに検討したい】このように考えています。



議員 畔上 孝一

村の人口増対策について

**答** SNSやWEBなどで本村の魅力を発信し

移住・定住者を増やしたい

**問** 高山村も人口減少が続き7000人を割り

込みました。4年前「8000人の村、世代間のバランスの取れた村づくり」を公約にされ、いくつかの対策を実施されてきましたが、減少は止まりません。今後の対策は。

**内山村長**

これまでの人口推移を見ますと、長期的な減少傾向が続いており大変憂慮すべき事態となっております。

村では国の動向を踏まえ「第2期高山山村総合戦略」を策定し、人口減少を制御した持続可能な村づくりを進めているところですが。

人口減少に歯止めをかけ人口増に繋げるため、子育て支援センターの充実など子育て世代の支援に努めてきました。

また、村へ移住を検討されている皆さんへの対応に2名の定住支援員を配置し取り組みを継続的に実施してきまし



将来の人口増につながる子どもたち。

た。令和元年度は6組14名の方が移住されておりです。これまでの助成制度を着実に実施するとともに、安心して暮らすことの村づくりや、農業・観光など魅力ある村づくりに努めます。

その他、「少人数学級を求める」「賑わいの場構想」について質問しました。

議員 西原 澄夫



コロナ禍の中で、村民の意見、要望等をどの様に吸い上げていくか

**答** きらめきポスト・気軽に村長室・出前いろいろり端会議など要望等聞く機会確保に努めたい

**問** コロナ禍、村民の意見要望等聞く機会をどの様に作っていくのか？

**内山村長**

郵送による「きらめきぼすと」を活用していただくとともに、人数制限をさせていただく中で、「気軽に村長室」や「出前いろいろり端会議」など、村民の意見、要望等聞く機会確保に積極的に努めてまいります。

**コロナ禍の中で、高齢者等が避難しやすい避難所について**

**答** 地区公会堂等に一時避難するなど安全な場所に避難していただくことが大切

**問** コロナ禍、避難所の増設は？

**宮本総務課長**

密を避けるための処置を講じた場合、想定される避難者数が、最大収容人数を上回るときは、増設が必要となりますので、早急に方向性を出してまいります。

**問** 高齢者等の避難所は、豊のある地域の公会堂などが望ましいのではないかと？

**宮本総務課長**

近くの知人宅や、親戚宅など自分に合った避難方法を検討していただくとともに、地区公会堂に一時避難していただくなど、早めに安全な場所に避難していただくことが、最も大切と考えます。

(仮称)千曲大橋について

**答** 千曲大橋の必要性などが記載されたリーフレットを全戸配布し村民に啓発したい

**問** (仮称)千曲大橋の建設に向けて、村民の意識を高める方策について

**小淵建設水道課長**

村民へのPRは決して十分とは言えませんので、千曲大橋の必要性などが記載されたリーフレットを全戸配布するなどして、村民の皆さんに、啓発して参りたいと考えています。



### 湯本 辰雄 議員

#### 退職後の りんご栽培者に助成を

**答** 認定農業者制度に

登録を

**問** りんご栽培の跡継ぎ者として、退職後に引き継がれる方に、有利な助成措置を構築してほしい。

**内山村長**

定年帰農者への国県の助成制度は十分ではない。認定農業者は機械購入費、機械化資金の利子補給などが受けられます。助成制度の広報も強化していきたい。

#### 国保税の 子供均等割りの廃止を

**答** 村独自で減免すること  
とは難しい

**問** 新型コロナウイルス感染症で子どもたちは自宅での

食事が増え、食事が高んでいる。子育て世帯への応援に、国保税の子供均等割り廃止を求める。

**内山村長**  
厳しい財政運営のため村独自で減免することは難しい。国の動向を注視します。

#### 山田牧場への 新施設建設は白紙に

**答** 再調査をしてから、  
合意を得たい

**問** 建設予定地には貴重な山野草があり、保存方法、食堂の売り上げを争奪する事態にならないかなど、多くの課題がある。新施設建設は、白紙にして検討を求めます。

**内山村長**

昨年9月に全区民の署名を頂いている。3月議会です算が承認された。貴重植物の保護対策は、今後、筑波大学の専門家に再調査を依頼し、自然環境に配慮して対応したい。



認定農業者登録されたりんご栽培の退職後継者です。

#### 共用スリッパは安全か

**答** 消毒回数増と、施設の土足利用を検討

**問** 各地で共用スリッパの利用を中止していますが、村の施設のスリッパの消毒・除菌は十分か。

**宮本総務課長**

役場などは夕方に1度の消毒で十分とは言えず、回数を増やす考えです。

**問** 共用スリッパを「消毒済み」と「使用後」に分けて回収できないか。

**宮本総務課長**

公民館で8月下旬から「消毒済み」と「使用済み」を別にして、閉館後に使用済みを消毒しています。感染症対策として大変有効と考え、他の施設も早急に検討します。



### 西條 正純 議員



公民館は「利用するスリッパ」と「使用済みスリッパ」を分け、利用者は消毒済スリッパが、管理者は要消毒スリッパが分かります。早急にすべての施設で実施を。

**問** 「マイスリッパ」持参を広報や放送など各種メディアで呼び掛けてはどうか。

**宮本総務課長**

感染症対策の面から、有効で合理的と考え、広報紙や情報無線などで周知に努めます。

**問** 履き替えをせずトイレに入りにできる「シューズそのままスリッパ」を配備できないか。

**宮本総務課長**

ほとんどの自治体で、土足のまま公共施設への入室が一般的で、本村も施設の土足利用を検討しており、「シューズそのままスリッパ」はその中で検討します。

# された皆さんに聞きました

## 3. 佐藤 学さん



ハーブハウス前で、後方は収穫前のイタリアンパセリ。

## コロナ禍の中でのハーブ栽培

佐藤さんは、三郷の氷川きよしと言われていると聞きました。数年前の地区の文化祭では文化部長さんに無理やり、きよしのズンドコ節と箱根八里の半次郎を、歌わされたそうです。文化祭は、大変な盛り上がりだったと聞いていますよ。

### 1、出身は。

飯山市です。今は、いづみ（奥さん）の実家（三郷）で、ハーブの栽培と販売を、生業としています。就農して11年目です。

### 2、ハーブっていつでも色々ありますよね。

チャービル、イタリアンパセリ、デイル、ルッコラは通年。  
パクチー、バジルは6月～11月の季節限定で栽培をしています。

### 3、今年は、コロナで、大変だったって、聞いていますけど。

2月下旬から県外出荷が停止、3月下旬から県内も出荷停止に、なっちゃいました。

5月下旬から、出荷が再開したけれど、現在も去年の出荷量の半分ぐらいまでしか、回復していません。

### 4、村への要望はありますか。

村や農協、県の職員の皆さんにまで、ハーブの注文を頂きました。大変有難うございました。

コロナ禍の中、困窮している方、それほどでもない方、殆ど影響を受けていない方、コロナの影響は色々です。本当に、困っている皆さんに、支援が届くような、施策をお願いしたいと思います。

（取材 西原澄夫）

# たかやまに移住定住を

## 4. 林 勇作さん



令和2年4月農業法人「オーチャードファームズ㈱」を設立。(りんご 50a、ぶどう 80a 経営)  
写真中央が林さんご夫婦と子どもさん。両わきが従業員さんです。

### 1、高山村に移住したきっかけ

生まれは鹿児島県です。高山村に来る前は東京でサラリーマンをしております。

趣味の登山で何度も長野県を訪れているなか「住みたい」という思いが募り、一念発起して移住を決意。小布施と須坂で迷いましたが、縁あって高山村にたどり着きました。

### 2、移住にあたって苦労したこと、良かったこと

村・区・組の仕組みよしたり、会話の中の方言がわからず苦労しましたが、近所の方をはじめ皆さんに丁寧に教えていただき、温かく見守っていただけたとで何とかやってこれたと思います。

### 3、高山村に住んでみての感想

自分が思い描いていたとおり、四季折々の里山の風景に大満足です。

美しい自然の中に身を置くと、色々なアイデアがどんどん溢れてきます。

また、我が家から一望できる善光寺平の景色は自慢のひとつです。

### 4、これから移住される方へのアドバイス

「こつしたい」という思いを実現できるのは自分だけ。信念と行動力で幸せなビレッジライフを！

### 5、村への要望

住んでみて改めて実感したのですが、高山村には全国に誇れる農産物や観光地が沢山あります。高山村を直接アピールできるような「道の駅」などの集客施設があれば良いと思います。

これからの村を支えていく若い世代の意見を取り入れて少しずつ形になって、移住を検討されている方が入り易くなれば良いと感じています。

(取材 西原澄夫)



坂下 隆彬

僕は山田牧場の牧夫を始めて、今年で4年目になります。牧場期間中の160日間は、毎日欠かさず牧場へ上がります。

牧場が正面に見えてくる最後の上り坂。牛の姿が見えると僕はなんだかいつも、ホッとします。

牛達は、牛特有の時間の中で生きている。食べては休み食べては休む。休んでいる間も口をモグモグさせ、胃から口へと食べたものを行ったり来たりさせています。ゆっくりしているようで、なかなか忙しい。雨が降ろうが、風が吹こうが、彼等の力強い生命活動が止むことはない。一見牛は遅そうに見える。しかし、走れば馬のように速く、高低差のある山を軽々と登って

きます。1分1秒の時計の間ではなく、太陽の時間で牛は動く。牧夫の仕事は、牛の持つ自然速度の中へ「入れてもらう」ことから始まります。

カラスが牛の頭の上にちょこんと乗っかっている。牛はそれを嫌がる様子もなく、乗せている。牛の黒い身体の上に黒い鳥。まるで神話の世界のようです。猪の子どもであるウリボーが牛の乾燥したフンをしきりに鼻で掘り返している。フンの中に虫でもいるのでしょうか。牛はウリボーのことなど気にも留めず、懐の深いところまで招き入れる。

僕の姿を見た途端、イノシシもカラスも警戒心をあらわにする。僕はやはり自然の外側に居るのだな、と一人取り

残された寂しい感じがします。

牛は牛同士、お互いのことを認識している。その証拠に同じ畜主の元からやってきた牛同士で群れをつくる。これは最初から最後まで大きく乱れることはありません。牛は最少2頭で群れをつくる。お互いのことを認識する能力。それは人間の持つものと、さほど変わらないのかもしれませんが。

外は真っ暗闇。牧草地には霧が垂れこめて視界は1メートル先までしか見通せない。そんな中、遅い治療を終えた牛を柵から解放して外へ出しましたが、群れの元へ無事戻れるか心配になり牛の後を追いました。全く何も見えない中、牛は一度も迷うことなく群の中に戻っていききました。恐るべき嗅覚や方向感覚でした。

牛という存在。草や葉っぱだけで生きてゆける偉大な動物。複雑な社会の速度や時間の中で見失いがちななってしまっている僕の中の自然速度を取り戻してくれる大切な生き物。

ある者には肉を与え、ある

者にはミルクを与え、そして又ある者には自然本来のサイクルを教えてくれる。牛を通して僕は人間とは何か、ということを手伝っているのかもしれない。途方もなく長い年月、1万年をかけた人は牛と共存してきました。人が牛を発見し家畜化して人類は今の繁栄を得た。時に残酷で時に愛情に満ちた日々。これからも人が生きてゆく限り、その隣には人間の支えとなる動物たちが存在しているはず。それは今も昔も変わらぬ血の通っている命です。

病気をしている牛はいないか、怪我をしている牛はいないか、皆無事であるか、とにかく生きていて、と今日も僕は牛の元へと向かいます。



山田牧場の放牧風景。



編集後記

実りの秋、一年でいちばん過ごしやすい季節になりました。

各地では「秋祭り」や子ども元気な声が聞こえる「運動会」などが次々と縮小や中止となり、コロナ感染症の恐ろしさをあらためて感じさせられます。村としてもプレミアム商品券や商業への各種支援金などを実施しておりますが、生活への打撃が皆様の不安を払拭するには至っておりません。議会としても皆様の御意見をどんどん御寄せ頂き、安心できる村づくりを目指していきます。

(水谷 清)

発行責任者

議長 松本 茂

議会報編集特別委員会

- 委員長 水谷 清
- 副委員長 西原 澄夫
- 委員 酒井 康臣
- 委員 宮川登志一
- 委員 柴田 弘男

発行 / 〒382-8510 長野県高山村議会  
編集 / 議会報編集特別委員会  
TEL (026) 245-1100  
印刷 / 株式会社